

不安とリスク

司会者) 「リスク」の反対は、何でしょうか。

回答者) ”クスリ”

司会者) 失礼しました。では、質問し直します。「リスク」の対義語は如何に。

回答者) ・・・・”安全”かなあ。いや、”確実”か”ベネフィット”かなあ。

何が「対義語」として正解なのか。の前に「リスク」とは何ぞや。確実に定義(確定)しなければならないが、「リスク」とは、一般的には、外的環境や要因の変化に伴って、何らかの危険・被害等の悪い事象が想定されること、として使用されているようである。剩れ「先の読めない”不安”」までが、押し並べて、その範疇に含まれている。

違った側面から捉えると、その所謂「リスク」が「リスク」でなくなる要素は、

- 1) 「リスク」を回避する。ネガティブな単なる”エスケープ”(逃避)
- 2) 「リスク」と対峙する。専守防衛。
- 3) 「リスク」に勝つ。何らかの対策を講じて、「リスク」を根絶する。
- 4) 「リスク」を無力化する。例えば「暖簾に腕押し」にする。(中和する)
- 5) 「リスク」と無関係にする。「リスク」と考えること自体、時間の無駄とする。
- 6) 「リスク」を「チャンス」や「オポチュニティ」(何れも”機会”)と捉える。

危険や被害が予測できるものには、その対策を講じることができるし、をの対策を見つけた時点で、その「リスク」は、既に「リスク」ではなくなっている。

つまり、真の「リスク」とは、ありとあらゆるケースを想定し、熟慮に熟慮を重ねても「やってみなければ分からない」が、真の「リスク」と定義されるのではないか。

失敗する可能性もあるが、成功する可能性もある。目先の「リスク」が与える”損失”より、その「リスク」を乗り越えた”利益”は大きいかもしれない。目先の「リスク」に拘泥すると、何も得られないし、現状維持のコストも甚大。ジリ貧となること必至。

現実の社会においては、その「リスク」の正当な計測(あり得ない)が出来ない限り、「リスク」を負うことは、しない。できない。が一般的なスタンスとなる。

しかし、「リスク」が正当に評価されず、誤認や錯覚され「先の読めない不安」までが「リスク」と認識されると、その「リスク」を被る世界は、硬直し、閉塞し、縮退するに相違ない。「先の読めない不安」は「単なる闇」として、気にしない”勇氣”が必要となる。その「闇」は案外「リスク」もないし「確実」も無いのであろう。つまり何も無い。その”勇氣”が硬直・閉塞・縮退を打破し、イノベーションの指針となり得る。

「リスクを取らないことは、最大のリスクとなる」羽生善治三冠(当文開示時点)